

ブック (Textbooks for Sustainable Development)』、アジアにおける平和教育、ESD、グローバル市民教育の現状を分析した『21 世紀に向けた学校教育の再考 (Rethinking Schooling for the 21st Century)』などを出版し、21 世紀にふさわしい教育のためのアプローチを牽引しています¹

このたび、MGIEP 所長のアナンタ・デュライアパ博士 (Dr. Anantha K Duraiappah) が来日する機会をとらえ、MGIEP が取り組む新しい教育アプローチなどについてお話を拝聴する機会を設けます。

プログラム (調整中)

司会進行：ESD 活動支援センター副センター長 鈴木克徳

14:00	開会挨拶	文部科学省 (調整中)、環境省 (調整中) ESD 活動支援センター長 阿部 治
14:15	講演	アナンタ・デュライアパ UNESCO MGIEP 所長
15:15	討論	北村 友人 東京大学准教授 小澤 紀美子 日本 ESD 学会副会長 望月 要子 UNESCO MGIEP カリキュラムチーム長

質疑応答

17:00 閉会挨拶 東京大学 (調整中)

UNESCO MGIEP 所長

アナンタ・デュライアパ博士 (Dr. Anantha K Duraiappah)

アナンタ・デュライアパ博士は、テキサス大学で博士号を取得した開発・環境経済の専門家であり、数多くの持続可能な開発に関する著作や論文を出版しています。「人間開発と能力協会」創設メンバーであり、「芸術と科学世界アカデミー」の研究者でもあります。リオ+20 で出版された『Inclusive Wealth Report』のとりまとめ編集者としても知られています。



お問い合わせ・参加申し込み：ESD 活動支援センター

contact@esdcenter.jp 電話 03-6427-9112 ご所属・氏名・連絡先をご連絡ください

UNESCO マハトマ・ガンジー平和と持続可能な開発のための教育研究所については別紙をご参照ください。

¹ UNESCO MGIEP (2017). Textbooks for Sustainable Development: A Guide to Embedding. Available at: <http://unesdoc.unesco.org/images/0025/002599/259932e.pdf>

UNESCO MGIEP (2017). Rethinking Schooling for the 21st Century: The State of Education for Peace, Sustainable Development and Global Citizenship. Available at: <http://unesdoc.unesco.org/images/0026/002605/260568e.pdf>

別紙

UNESCO マハトマ・ガンジー平和と持続可能な開発のための教育研究所

The UNESCO Mahatma Gandhi Institute of Education for Peace and Sustainable Development
(UNESCO MGIEP)

<http://mgiep.unesco.org/>

UNESCO MGIEPはインド政府の支援により設立されたアジア初のユネスコ直轄研究所です。2009年に、ユネスコ総会は、広範で急速に発展しつつあるアジア太平洋地域に基盤を置き、平和と持続可能な開発のための教育に焦点を当てた機関を設立することを決定しました。この決定を受け、イリナ・ボコヴァ ユネスコ事務局長とインドのプラナブ・ムカルジ大統領（いずれも当時）が2012年にUNESCO MGIEPを設立しました。



UNESCO MGIEPは、Transforming Education for Humanity（人類のために教育を変革する）をスローガンに、SDGターゲット4.7実施に取り組んでいます。

現在ユネスコは、ESDとグローバル・シチズンシップ教育(Global Citizenship Education、GCED)をSDGターゲット4.7の2本柱として推進しており、GCEDは従来の人権教育・平和教育・国際理解教育などを総括するような形で、特に近年では宗教・信条に基づく不寛容及び暴力的過激主義（violent extremism）を防止するための教育を内包しながら進化を遂げています。

UNESCO MGIEPではSDG4.7推進の鍵として「若者」と「SEL」（Social and Emotional Learning:社会性と情動の学習）と「デジタル・テクノロジー」に着目し、脳科学に基づくSELカリキュラム開発など様々なプロジェクトを展開しています。